

# 別紙①未来型図書館のビジョン

ビジョン

将来あるべき姿を描いたもの。大切にする価値観。

→未来型図書館ができることで、まちや暮らしで実現させたいあり方

こまつを編む。

こまつを巡らす。



—まちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」—

編む

まちの中にある多様な資源を結び付け、価値を生み出しながら、小松の人々が自らの手で、小松というまちを編み上げていく。

巡らす

人・文化や歴史・情報・活動・経済等、様々な要素が地域において将来にわたって循環し、連鎖し続け、生き生きとしたよりよいまちのかたちや暮らしを持続的につくっていく。

情報

多様な形態、種類、内容の情報を、その垣根を超えてつなぎ、新たな価値を生み出していく。

つながり

多様な人、地域、文化など個々の特徴を活かしながら関係性のつながりをつくり、動かしていく。

とき

まちの歴史のなかにある資源（ヒト・モノ・コト）を掘り起こし、未来へつないでいく。

# 未来型図書館のコンセプト

コンセプト

ビジョンを実現する具体的構想「何を提供するか」→ 施設が担っていくこと

持ちより共有し、出会う場  
(こまつコモンズ)

人々が、得意なことや悩み等、様々なものを持ち寄り共有する場です。誰でも分け隔てなくそこに居ることができ、人が集まり出会うこと、そしてその人たちがやりたいことを支えていく場としての役割を持ちます。

ともに作り、育む場  
(こまつキャンパス)

多様な人が関わり合いながら作り、人やまちを育てていく場所です。ともに学び、ともにまちの未来を描いていく場としての役割を持ちます。

共に創る

人の営みや情報の核となる拠点  
(こまつベース)

情報が垣根を超えてつながり、集約された拠点となります。  
地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）をむすびつけ、  
編集して活かしていくまちの核としての役割を持ちます。

# 未来型図書館に想定される主な機能

未来型図書館は多面的な機能を有し、多様な体験を可能にする施設を想定



知の集積  
図書館 等



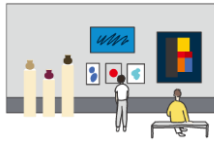
体験の共有・交流  
多目的室  
カフェ 等



創造  
工作作業スペース  
スタジオ 等



地域の歴史・文化の  
集積・編集  
博物館  
ミュージアム 等



知・文化の共有  
多文化交流スペース  
貸し本棚 等



子育て支援  
屋内あそび場  
預かりルーム 等



発信・表現  
ホール・ギャラリー 等



施設・地域連携  
学校連携  
支援 等



活動支援  
市民活動サポート  
ビジネス支援 等



“個”の活動  
学習スペース 等



共創  
市民協働プロジェクト 等

くつろぎ・居場所  
開放的な空間 等

